

Monster Parents vs Helicopter Parents 04 - 10

前に「困った親」という記事を書きましたが、その際、

- 1: 学校側が対応に困っている「困った親」(学校の視点)
 - 2: 学校関係で対応に苦慮している「困っている親」(親の視点)
- の語句解釈のうち、2の視点に重点を置きました。

ところが、最近、1の視点で、例外中の例外みたいなものを、面白おかしくとりあげて、テレビなどは、2の視点をはぐらかすことをしているようですね。ボクはそれに陰謀みたいなものさえ感じます。

- ・集合写真では自分の子供を真ん中におけ。
- ・自分の子供は家でも掃除させていないから教室掃除はさせないでくれ。

こういう荒唐無稽な(じつはウソだとさえ思う)親を「モンスターペアレント」という新語で面白おかしくとりあげ、そういう親の対応に先生たちが苦しんでいるさまをインタビューなどで伝えるわけです。

これではぐらかされる本当の親の困っていること、たとえば、指定された三者懇談の日は仕事の関係で行けないから土日してもらえないかという願いをする親、宗教的あるいは健康上の理由で給食に注文をつける親、家庭の事情で遠足に行かせられない親、白色ブラウスを買う余裕がないから誕生日にプレゼントされた黄色のブラウスで通学させたい親などの要求は、お

もしろくもおかしくもないことだから、いっさい報じられないし、インタビューに応える先生の言葉の中にも出てこない、出てきても、放映ではカットされる、それが恐ろしいと、ボクは言うのです。

日本の **Monster Parents** は、かように、荒唐無稽なバカ親ですが、アメリカにも最近 **Helicopter Parents / Moms** と呼ばれる親(母親)が現れました。

安心して学校に教育を任せられない親が、学校の上空をヘリコプターのように回りながら監視を続けていて、問題があるとすぐに校庭に降り立つ、というイメージのようです。

この問題をとらえた本がアマゾンで見つかりましたので、注文明しました。

How to Deal With Parents Who Are Angry, Troubled, Afraid, or Just Plain Crazy (Second Edition by Elaine K. McEwan)

書題に、“just plain crazy” とあるように、「**頭おかしいんじゃないの?**」という扱いのようです。となると、日本と同じか。

追記:

ここでは詳しく書きませんが、下記の項目、じつは、**Monster Parent** として、あるいは、**Helicopter Parent** としての提言・意見・文句ではなく、学校教育というものを、教育者の立場から、十分まじめに考えた上での、私の意見です。私が文部科学大臣であれば、即刻これを命令しますね。

いずれの項目も、アメリカ等ではすでにそのようになっており、それがなんともいえない開放感を与えています。逆に言う